

スミレの変身

林床からスミレの花が消えても、スミレは地下にもぐったわけではありません。春から夏へ、光条件の変化に応じて、葉を作り変え、花も作り変えて、活動を続けています。



タチツボスミレ



アオイスミレ



ヒカゲスミレ



エイザンスミレ



マルバスミレ

タチツボスミレは茎を伸ばして、少し大きめの葉をたくさん作ります。地上に茎のないスミレは大きな葉を少数作り、少しずつ葉を入れ替えています。

暗くなった林床は光が乏しいので、広い範囲から光を集めるには、葉の面積は広いほどいいでしょう。強い光が当たらないので、大きく薄い葉でも、葉の温度が上がって脱水する危険は、明るい春よりずっと小さくなります。

花が咲かなくなったスミレたちですが、実は変わらずできています。つぼみの中で自家受粉して種子を作る、閉鎖花を作っているからです。

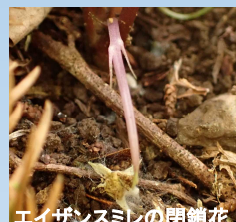
閉鎖花作りには夏休みがあるようですが、秋にはまた活発に閉鎖花を作るようになります。



タチツボスミレの閉鎖花



アオイスミレの閉鎖花



エイザンスミレの閉鎖花

融通の利かないナガバノスミレサイシン

春には葉が開ききっていない状態で花が咲いていましたが、今は大きく開いた、少し暗い緑色の葉を広げています。これから新しく葉を作ることはなく、春に一度だけ作った葉を、秋まで使い続けます。これでは、急に明るさが変わっても、対応できませんね。



春のスミレ

開花期のスミレ類は葉が小さく、花が目立つ



タチツボスミレ



アオイスミレ



ヒカゲスミレ



エイザンスミレ



マルバスミレ



ナガバノスミレサイシン

